根津美術館
NEZUMUSEUM

企画展「英姿颯爽 ―根津美術館の武器・武具―」特別催事

素浄瑠璃「壺坂観音霊験記 ―沢市内より山の段―」

根津美術館が所蔵する武器・武具はほぼ、明治時代の実業家・光村利藻の蒐集品で成り立っています。大阪生まれ神戸育ちの光村は、二代目越路太夫から浄瑠璃を習うほどの大の文楽ファンでもありました。そこで企画展「英姿颯爽 ―根津美術館の武器・武具―」に合わせ、素浄瑠璃を楽しむ会を企画いたしました。現在の人形浄瑠璃文楽座を牽引する演者である豊竹呂勢太夫さんと鶴澤燕三さんをお迎えし、迫力ある演奏をお楽しみいただきます。演奏の前には、呂勢太夫さんに浄瑠璃の聴きどころ、ご自身の床本や見台の蒐集についてもお話をうかがいます。

2026年 3月8日（日） 午後1時～2時（12時45分 開場）

場　所　根津美術館 講堂

出演者　太夫　豊竹呂勢太夫

三味線　鶴澤燕三　　ツレ　鶴澤清允

〈素浄瑠璃とは〉

数ある人形浄瑠璃芝居のうち、植村文楽軒が大坂ではじめた文楽座が演じる「人形浄瑠璃文楽」は、国の重要無形文化財の指定を受けるなど日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。素浄瑠璃は、そのうち人形がつかない、太夫と三味線だけによる浄瑠璃の演奏のことをいいます。人形がないとつまらないのではないか、難しそうという心配はご無用です。太夫の渾身の語りと三味線の豊かな音色が描き出す物語の情景は、演者の表情や身体の躍動もあいまって、むしろ鮮明に脳裏に浮かび上がってきます。その情感あふれる音楽性をぜひご堪能ください。

参加費

・2、000円（税込）

※入館には別途催事当日の入館料が必要です。
当館ホームページから事前の入館予約をお勧めいたします。
または催事当日に当日入館券を当館受付でお求めください。

参加方法

・2月3日（火）午後1時より、根津美術館ホームページにて参加券を販売いたします。
（クレジットカード決済のみ、キャンセル不可）。
・定員100名。全席自由席です。

注意事項

・中学生以上対象。
小学生以下のお子様連れの参加はご遠慮ください。
・開演中の入退場はできません。
・当館受付、電話やメールではお申込みできません。
・災害、停電などのやむを得ない事情による開催中止を除き、お支払いいただいた参加費の返金はできません。

撮影：小川知子

「壺坂観音霊験記」とは

盲目の沢市と献身的な妻お里が、奈良・壺阪寺の十一面観音の霊験によって救われる、文楽の演目としては珍しいハッピーエンドの物語です。初演は明治12年（１８７９年）。作曲は明治時代の三味線の名手である二世豊澤團平です。光村は父に連れられて、團平の自宅によく出入りしていたといいます。おそらくは光村も見ていたであろう、この世話物の代表作をお楽しみいただきます。

〈あらすじ〉

土佐町（今の奈良県高市郡高取町）に住む盲目の沢市は、妻のお里と細々と暮らしていました。あるとき、沢市はお里が明け方になると毎日のように出かけていることに気がつき、不貞をはたらいているのではと疑い、問い詰めます。すると、実はお里が夫の目の回復を願い壺阪寺に参拝していたことがわかります。お里を疑ったことを恥じた沢市も一緒に観音参りをはじめますが、自分がいない方がお里が幸せになれると考え、谷へ身を投げてしまいます。沢市の死を悲観し、その後を追ってお里も谷へ身を投げますが、観音の慈悲で二人は救われ、沢市の目も開くという、夫婦の情愛と篤い信仰を描いた感動作です。

豊竹 呂勢太夫

人間浄瑠璃文楽座・太夫

1965年東京生まれ。1979年四代　鶴澤重造に師事して義太夫の手ほどきを受ける。1982年に国立劇場文楽第８期研修生に編入。1984年に五代 竹本南部太夫に入門し竹本南寿太夫と名のり、同年国立文楽劇場で初舞台。1985年に五代豊竹呂太夫の門下となり、1988年に豊竹呂勢太夫と改名。2000年に八代豊竹嶋太夫の門下となる。
第28回国立劇場文楽賞文楽優秀賞（2009）をはじめ、第17回日本伝統文化振興財団賞（2013）、第69回芸術選奨文部科学大臣賞（2019）、第45回松尾芸能賞優秀賞（2024）、など受賞多数。明朗な発声と伸びやかな美声で、現在の文楽の中で最も充実した太夫の一人。浄瑠璃本や見台の収集など、資料調査の見識にも定評がある。

鶴澤 燕三

人間浄瑠璃文楽座・三味線

1959年神奈川県生まれ。1977年国立劇場文楽研修生となり、1979年五世鶴澤燕三に入門し鶴澤燕二郎と名乗る。同年大阪朝日座で初舞台。文楽協会賞（1986、1988）をはじめ、因協会賞（1986、1988、1990、2000、2008）、大阪文化祭賞奨励賞（1987）、国立劇場文楽賞文楽優秀賞（2006、2010）、同大賞（2018）、第69回日本芸術院賞（2013）、第41回松尾芸能賞優秀賞（2020）など、受賞多数。
2006年、江戸時代からの文楽義太夫節三味線方の名跡、六世鶴澤燕三を襲名。2021年紫綬褒章受章。研ぎ澄まされた音色で観客を魅了し続ける、文楽座を代表する三味線方のひとり。

企画展「英姿颯爽 －根津美術館の武器・武具－」　2026年2月14日（土）～3月29日（日）

根津美術館のコレクションの中で、武器・武具はちょっと特殊な存在です。実は初代根津嘉一郎は「刀はわからない」と公言しており、好んで蒐集していないからです。しかし明治42年（1909）に、実業家・光村利藻(1877～1955)の3,000点におよぶ武器・武具コレクションを一括購入。優れた作品群の海外流出を危惧した英断は大規模な散逸を防ぎ、その体系的な蒐集の特性を守ることになりました。当時からは半減したものの、当館の武器・武具は現在も、ほぼ光村コレクションで形成され、未だ往事の内容をよく伝えています。本展覧会では、これら質の高い、洗練された武器・武具コレクションから選りすぐりをお楽しみいただきます。

同時開催　展示室５　百椿図 －暮らしを彩る椿模様－
　　展示室６　草萌ゆる －春の茶会－

公益財団法人 根津美術館
〒107-0062 東京都港区南青山６丁目５番１号
https://www.nezu-muse.or.jp　電話 03-3400-2536

根津美術館
NEZUMUSEUM